

通し番号	4 4 3 4
------	---------

分類番号	21-71-21-01
------	-------------

(成果情報名) 平成20年え付け採卵鶏の経済検定	
<p>[要約] 各銘柄の特徴としてはジュリアは、産卵率、日産卵量、飼料要求率、卵殻強度に優れ、パック卵生産割合が多く、収益性に優れていた。ライトは、産卵率が優れ、パック卵生産割合が多く、収益性も良好であった。B 400 は、産卵率、飼料要求率に優れ、ハウユニットが高く、パック卵生産割合が多く、収益に優れていた。マリアは、育成率が高く、育成期、成鶏期の飼料摂取量が少なく、パック卵生産割合が多かった。ソニアは、育成率が高く、50%産卵到達日齢が早く、産卵率が良好でパック卵生産割合も多かった。ボリスは、50%産卵到達日齢が早く、平均卵重が大きく、卵殻強度に優れていた。</p>	
<p>(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター畜産技術所・経営流通担当 連絡先 046-238-4056</p>	

[背景・ねらい]

採卵鶏の各銘柄は年々改良され性能・特徴が変化しており、各養鶏場に適合した銘柄を選定するか否かで養鶏経営の良否が分かれる。そこで、本県で普及している採卵鶏の銘柄について、それらの特質と能力を検定して養鶏農家における鶏種選定の指針を示す。

[成果の内容・特徴]

- 1 育成率は、マリア、ソニアが 100%でボリスに対して有意に優れていた ($p < 0.05$)。
- 2 日産卵量は、産卵率が良好で卵重が中程度だったジュリアが最も優れ、産卵率が低かったボリス、マリアに対し有意な差が認められた ($p < 0.05$)。
- 3 飼料要求率は、飼料摂取量が少なく産卵率が良好だった B 400 が最も良く、産卵率が優れていたジュリアと続き、いずれも 2.00 以下でライト、マリア、ソニア、ボリスに対し有意な差が認められた ($p < 0.05$)。
- 4 ハウユニットは、B 400 がジュリア、ライト、ソニア、ボリスに対し有意に優れていた ($p < 0.05$)。図 1 に示したハウユニットの推移でも、B 400 が 34~78 週齢まで最も高く推移し、42、65、78 週齢時にボリスと有意な差が認められた ($p < 0.05$)。
- 5 卵殻強度は、ジュリアが B 400、マリア、ソニアに対し有意に優れ ($p < 0.05$)、卵殻強度の推移でも、産卵全期間にわたってジュリアが優れていた(図 2)。
- 6 収益性は、ジュリア、B 400 が 1 羽当たりの年間収益が規格卵で 1,000 円以上と高く、ソニア、ボリス、マリアがやや低く、非規格卵価でも同様な傾向であった(表 1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 銘柄の特徴(生産性、卵質等)を考慮して、それぞれの販売方式に適合した銘柄を選定することにより経営向上が期待できる。

[具体的データ]

表1 平成20年度餌付け採卵鶏の経済検定成績(0~80週齢)

	ジュリア	ライト	B400	マリア	ソニア	ボリス
[育成期(0~20週齢)]						
0~19週齢						
育成率(%)	96.5 ab	97.8 ab	100.0 ab	100.0 a	100.0 a	97.0 b
飼料総摂取量(g/羽)	7,610 b	7,645 b	7,332 ab	7,418 a	7,727 c	8,206 c
20週齢体重(g)	1,490 ab	1,465 bc	1,406 ab	1,402 a	1,608 c	1,753 d
50%産卵到達日齢	143.3 ab	143.5 ab	146.0 b	143.5 b	141.0 a	139.0 a
[成鶏期(20~80週齢)]						
○生産性						
産卵率(%)	89.6 a	88.6 a	87.2 a	82.7 b	85.7 ab	82.2 b
平均卵重(g)	62.2 bc	60.4 d	62.7 ab	61.1 cd	62.1 bc	64.1 a
日産卵量(g)	55.9 a	53.6 ab	54.9 ab	50.4 c	53.3 ab	52.6 bc
飼料摂取量(g/日)	111.0 b	109.4 ab	105.9 a	106.7 ab	110.0 ab	108.8 ab
飼料要求率	1.99 ab	2.05 bc	1.94 a	2.12 c	2.06 bc	2.07 bc
生存率(%)	81.3	81.3	90.0	91.3	91.3	95.0
○卵質(34,42,52,65,78)週齢時の平均値)						
ハウユニット	85.6 bc	85.4 bc	89.7 a	87.8 ab	86.5 bc	84.2 c
卵殻強度(kg/cm ²)	4.38 a	4.08 ab	3.24 d	3.36 cd	3.68 bc	4.00 ab
卵殻厚(mm)	0.365 a	0.370 a	0.373 a	0.344 b	0.363 a	0.378 a
卵黄重比	26.9 a	27.4 a	25.8 a	27.2 a	26.3 a	24.7 b
血斑出現率(%)	0.0	4.0	1.0	3.0	1.0	5.0
肉斑出現率(%)	0.0 a	0.0 a	1.0 a	4.0 ab	12.0 b	6.0 ab
○規格卵比率						
LL	11.1 b	5.4 c	11.7 ab	8.1 bc	11.2 b	18.5 a
L	38.7	30.7	39.3	35.7	36.4	36.8
M	29.7 a	36.1 a	29.9 a	30.3 a	29.1 ab	21.0 b
MS	13.8 b	19.0 a	12.3 b	15.1 ab	14.7 b	14.0 b
S	5.0 bc	6.6 ab	3.3 d	8.5 a	5.5 b	3.4 cd
SS	0.6 ab	1.0 a	0.3 b	1.0 a	0.6 ab	0.4 ab
パック卵(L~MS)	82.2 a	85.9 a	81.5 a	81.1 a	80.1 a	71.7 b
○収益性(生産卵量×卵重-ヒナ代-飼料費:円/羽・年)						
規格卵価	1,044.5 a	947.3 ab	1,049.2 a	802.4 bc	868.9 bc	779.2 c
非規格卵価	716.9 ab	604.2 bc	754.9 a	494.8 c	570.8 c	551.0 c

※同一項目内において異符号間に有意差あり(p<0.05)

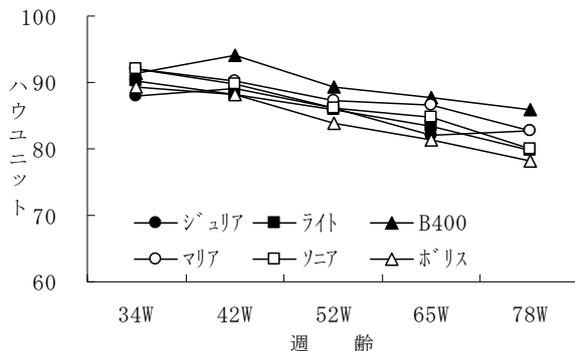


図1 ハウユニットの推移

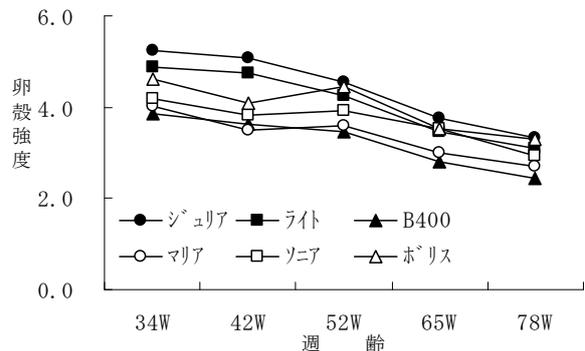


図2 卵殻強度の推移

[資料名] 平成21年度試験研究成績書

[研究課題名] 採卵鶏の性能比較調査

[研究期間] 平成19~21年度

[研究者担当名] 引地宏二・平原敏史